

製品名: STAT1 α (9I6) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe18346**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|---|
| 説明 | 組換えウサギモノクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,IP |
| 反応性 | ヒト、マウス |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | モノクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。 |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50mM トリスグリシン (pH 7.4)、0.15M NaCl、40% グリセロール、0.01% 新タイプ防腐剤 N、および 0.05% 保護タンパク質で供給されます。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|------------------------------|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IP 1:20-1:50 |
| 分子量 | 87kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|--|
| 遺伝子名 | STAT1 CANDF7; ISGF 3 ; Signal transducer and activator of transcription 1, 91kDa; Signal transducer and activator of transcription 1-alpha/beta; Stat1; STAT91; Transcription factor ISGF-3 components p91/p84; |
| 別名 | |
| 遺伝子 ID | 6772.0 |
| SwissProt ID | P42224 |
| 免疫原 | ヒト STAT1 α の合成ペプチド |

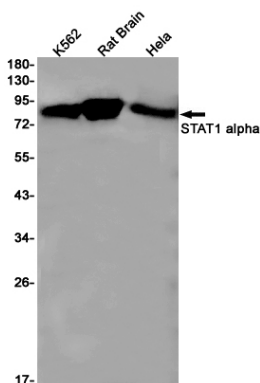
背景

Stat1 転写因子は、多数のリガンドに反応して活性化され、IFN- α および IFN- γ への反応に不可欠です。Stat1 の Tyr701 リン酸化は、Stat1 の二量体形成、核移行、および DNA 結合を誘導します。多くの腫瘍では、Stat1 の不適切な活性化が見られます。Stat1 は、インターフェロン (IFN)、サイトカイン KITLG/SCF、その他のサイトカイン、および他の成長因子に対する細胞応答を媒介するシグナル伝達および転写活性化因子です。I 型 IFN (IFN- α および IFN- β) が細胞表面受容体に結合した後、タンパク質キナーゼを介したシグナル伝達により、Jak キナーゼ (TYK2 および JAK1) が活性化され、STAT1 および STAT2 のチロシンリン酸化が起こります。リン酸化 STAT は二量体を形成し、ISGF3G/IRF-9 と会合して ISGF3 転写因子と呼ばれる複合体を形成し、核内に移行します (PubMed:28753426)。ISGF3 は IFN 刺激応答配列 (ISRE) に結合し、IFN 刺激遺伝子 (ISG) の転写を活性化します。これにより、細胞は抗ウイルス状態に誘導されます。II 型 IFN (IFN- γ) に反応して、STAT1 はチロシンおよびセリンがリン酸化されます (PubMed:26479788)。その後、STAT1 は IFN- γ 活性化因子 (GAF) と呼ばれるホモ二量体を形成し、核内に移行して IFN- γ 活性化配列 (GAS) に結合し、標的遺伝子の発現を誘導することで、細胞を抗ウイルス状態に誘導します。KITLG/SCF および KIT シグナル伝達に反応して活性化されます。活性化された FGFR1、FGFR2、FGFR3、FGFR4 に対する細胞応答を媒介する可能性があります。

研究分野

シグナル伝達

画像データ



STAT1 アルファ抗体 (1:1000 希釈) を使用した K562、ラット脳、Hela 細胞溶解物中の STAT1 アルファのウエスタン ブロット検出。